火星2018（中盤期）

黒　田　瑞　星

７月３１日の大接近を終え、火星は徐々に地球から遠ざかっています。

６月１７日の熊森さんの講演で永長先生と再会し、月惑星研究会に入会しました。その後、永長先生や姫天の堀井さんに惑星撮影・画像処理のノウハウを教えていただきながらボチボチと撮影を続けてきました。

1．6月以降加わった新たなアイテム

ｎ Focus ＋専用 DX モーター（笠井トレーディング扱い）

※ノブに手を触れずに調整することができるので、振動が抑えられピント調整が楽になりました。

2．今、こんな感じでやってます

１９時３０分	夕食・片付け終了
２０時	IR742 フィルター　90 秒露出を 4 枚、RGB フィルター　90 秒露出を各 1 枚 これを 1 セットとして、天候を見ながらできるだけ撮影
２１時３０分	撮影終了 少し観望して、撤収

3．フィルターを使った火星撮影

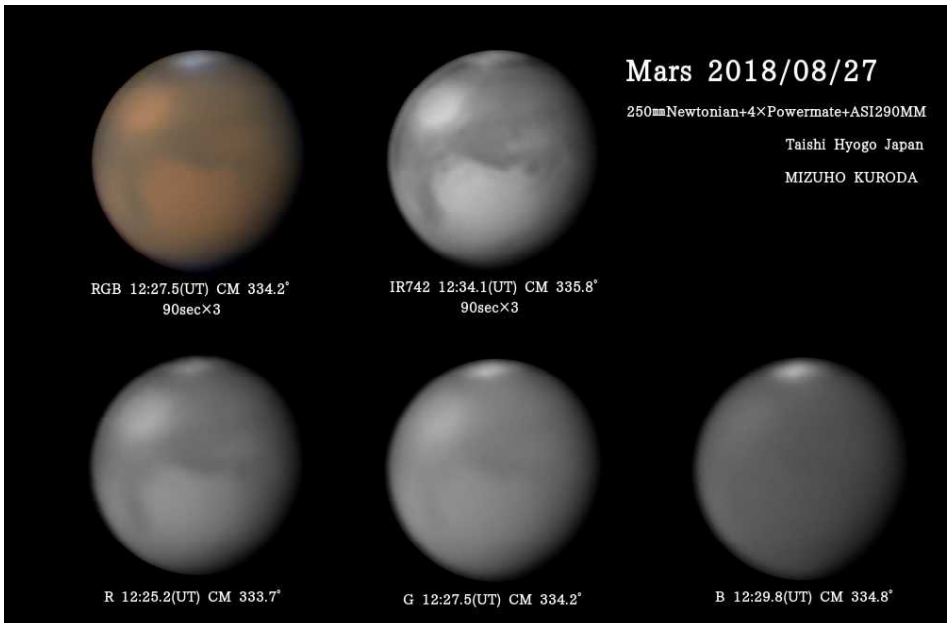
フィルターを用いた撮影をする目的を永長先生に教えていただきました。

火星は大地の状況変化、霧、雲、氷晶雲、氷、ダスト、ブルークリアリング、発光、怪光など様々な現象が起こります。それらをカラー画像 1 枚から得ることは不可能に近いので、現象に応じたフィルター観測が重要なわけです。実際に目で見える状況の画像は RGB で、IR で大地の状況、B で水に関する雲や氷の状況、ダストは R や G で・・等目的を持って得られた画像が大切です。

4．終盤期の見所（ダストが晴れれば、どんな模様が見えるのか…）

大規模な砂嵐の結果、その起こる前と後では火星の模様に大きな変化が起こっていることが予想されます。

どんなふうに変化しているかが楽しみです。

ダストが晴れなければ…

そのときは、あきらめて２年後を待ちましょう。